

第8回「荒垣秀雄顕彰作文コンクール」

作品募集要項

【コンクールの目的】

岐阜県飛騨市(旧吉城郡神岡町)出身の故荒垣秀雄氏は、昭和21年から足掛け18年の長きに渡り、朝日新聞一面コラム「天声人語」を執筆されました。発想力豊かで、自然の季節感や花鳥風月が取り入れられた読む人を惹きつける名文の数々は多くの人々を魅了しました。昭和31年には、第4回菊池寛賞を受賞されています。そのほかテレビの時事番組への出演や著書の出版、自然保護活動の推進を通じて社会に大きな影響を与えました。

そうした数々の功績が称えられ、昭和45年に荒垣氏は神岡町名誉町民となりました。平成30年には生家跡地に顕彰石碑が建立され、今も神岡町の顔の一人として、地域の人々に敬愛されています。

本コンクールは、顕彰碑ができた際に「天声人語」に因^よんだイベントとして始まりました。執筆当時の「天声人語」と同じ800字で、自分の考えや想いを言葉、文章にすることによって、表現力・想像力・発想力を育むとともに、飛騨が生んだ偉大な先達を永く語り継ぎ、顕彰することを目的としています。

今年は「私の大切な一言」というテーマで、8回目となる作品募集を行います。

【応募規定】

○テーマについて

『私の大切な一言』

○字数について

800字（400字詰めの縦書き原稿用紙2枚）

※手書き、パソコン入力は問いません。手書きの場合、濃くはっきりと書いてください。

○各部門と応募資格について

① 小学生の部(5・6年生のみ) ② 中高生の部 ③ 一般の部

○応募方法 等

1. 応募票(コピー可)を各項目ご記入の上、作品に添えて応募先まで郵送してください。オンラインでの提出を希望される場合は、飛騨市 HP の第8回荒垣秀雄顕彰作文コンクール募集案内ページの提出用フォームから送信してください。(ファイル形式は、Word または PDF のみ可)
2. 文の頭は、原稿用紙の1行目としてください(原稿用紙にテーマやタイトルの記入は不要です)。氏名は、紙(郵送)での提出の場合、原稿用紙2枚それぞれの欄外右下の余白へ記入してください。データ(オンライン)での提出の場合は、不要です。
3. 原則として、応募作品は返却しません。
4. 応募作品は自分の言葉で書かれた、未発表のオリジナル作品1点に限ります。
5. 入賞作品は飛騨市 HP やひだ電子図書館などで公開する場合があります。

○締切

令和7年9月5日(金) 郵送・持参の場合:必着 オンラインの場合:23:59まで

○各賞

◇荒垣秀雄 天声人語賞(提供:荒垣秀雄氏のご遺族より)

①小学生の部:1点(図書カード3万円)

②中学生の部:1点(図書カード3万円)

③高校生の部:1点(図書カード3万円)

◇飛騨市長賞:1点(図書カード2万円) ※飛騨地区内の児童・生徒の応募者が対象です。

◇朝日新聞社賞:1点(図書カード2万円) ※飛騨地区内の児童・生徒の応募者が対象です。

◆小学生の部:入選5点(図書カード5千円)

◆中・高校生の部:入選5点(図書カード1万円)

◆一般の部:特選1点(図書カード1万5千円)

○審査・発表・表彰式

審査の結果については、令和7年12月頃、入賞者を飛騨市HPおよび報道機関等を通じて氏名等を発表します(入賞者のみ別途結果を通知します)。

表彰式は、令和7年12月23日(火)15:30~16:30、飛騨市神岡図書館にて開催します(入賞者には別途ご案内します)。

<審査員>

都竹淳也(飛騨市長), 荒垣さやこ(荒垣秀雄天声人語賞審査員), 沖猛志(朝日新聞名古屋本社統括チームマネジャー), 山本正明(荒垣秀雄氏生誕地顕彰会長), 下出尚弘(飛騨市教育長)

○応募先・問い合わせ先

飛騨市図書館

〒509-4292 岐阜県飛騨市古川町本町 2-22 飛騨市役所西庁舎 1階

T E L:(0577)-73-5600 ※図書館開館中のみ

開館時間:火曜日~土曜日・祝日/9:00~20:00 日曜日/9:00~17:00

休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は開館、翌日休館) 図書整理日(毎月最後の金曜日)

【主催】 飛騨市, 飛騨市教育委員会

【共催】 朝日新聞社, 荒垣秀雄氏生誕地顕彰会, 荒垣秀雄氏のご遺族

《天声人語とは》

朝日新聞朝刊の1面に連載されているコラムです。1世紀以上もの長きに渡って掲載され、最近のニュース・話題を題材にして、読者に対して様々なメッセージを送り続けてきた「名物コラム」です。

《荒垣秀雄氏の経歴》



明治36年岐阜県吉城郡神岡町に生まれる。早稲田大学政治経済学部卒業後、朝日新聞社に入社。昭和12年英国王戴冠式の特派員としてロンドンへ赴き、文名を高めた。昭和14年社会部長に就任。その後リオデジャネイロ支局長などを経て、戦後論説委員となる。昭和21年「天声人語」の担当となり、コラムニストとしての地位を確立した。退社後も晩年まで執筆活動や番組出演を続けるかたわら、自然保護活動に尽力し、日本自然保護協会会長を務めた。昭和62年東京都名誉都民。